ご注意：本書は正式な取り扱い説明書ではありません。

本書は取り扱い説明書から注意文など製品の操作方法について直接関係のない部分や余白などを削除、修正したもので、操作方法が分からなくなったが説明書が手許にないとか、製品に興味があるが操作方法はどのようになっているのか先に知りたい、といった目的のために無償でご提供しています。正しくお使い頂くためには必ず製品に同梱されている説明書をお読み下さい。又、本書が完全な説明書では無いことに対するクレームは一切お受け致しませんので、予め御理解ください。

１：正式な説明書は無線機販売店でご購入いただけます。詳しくは下記の弊社ウエブサイトをご参照ください。http://www.alinco.co.jp/denshi/14.html

２：アマチュア無線機の場合、無線局免許状の書き方は申請書式や技適基準改正により変更になっているものがたくさんあります。http://www.alinco.co.jp/denshi/10.html　に技適番号やデジタルモード（音声・パケット）に関する情報を掲載しておりますので、合わせてご確認ください。

３：本書に記載の付属品・オプションアクセサリー・定格などは予告無く変更されているものがあります。最新の情報は弊社ホームページに掲載されています。

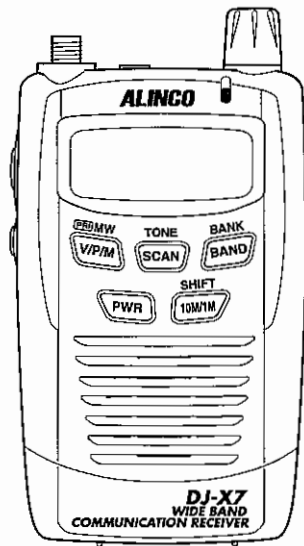
その他、動作や操作に関する良くあるお問い合せは：
http://www.alinco.co.jp/denshi/11.html　のＦＡＱページをご覧ください。

アルインコ（株）電子事業部

WIDE BAND COMMUNICATION RECEIVER

DJ-X7

取扱説明書

アルインコ　ワイドバンドレシーバーをお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。本機の性能を十分に発揮させるために、まずこの取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。
アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保存しておいてください。

アルインコ株式会社

第9章　定格

周波数範囲		0.100～1299.995MHz
電波の形式	AM	A3
	FM/WFM	F3
アンテナインピーダンス		50Ω不平衡　SMA端子
電源電圧	電池端子	DC3.7V
	外部端子	DC3.7V～6.0V
消費電流	受信定格出力時	約90mA
	待ち受け時	約65mA
	バッテリーセーブ時	約22mA
周波数安定度		-7～+3ppm(-10℃～+60℃)
外形寸法		58W×96H×14.5Dmm(突起物除く)
重量		約103g(EBP-58N装着時)
受信方式	NFM/AM	トリプルスーパーヘテロダイン
	WFM	ダブルスーパーヘテロダイン
中間周波数	1st	243.95MHz
	2nd	39.15MHz(NFM/AM)、10.7MHz(WFM)
	3rd	450kHz(NFM/AM)
受信感度(代表値)	FM	30～470MHz:-12dBμ(0.25μV)以下、470MHz以上:-6dBμ(0.5μV)以下　12dBSINAD
	WFM	76～470MHz:-2dBμ(0.8μV)以下、470MHz以上:9dBμ(2.8μV)以下　12dBSINAD
	AM	0.1～50MHz:0dBμ(1.0μV)以下、50MHz以上:-8dBμ(0.4μV)以下　10dBS/N
選択度	NFM/AM	-6dB/12kHz以上、-60dB/35kHz以下
	WFM	-6dB/130kHz以上、-60dB/300kHz以上
低周波出力		最大100mW以上(8Ω時)

⚠注意

●幼児の手の届く場所には置かないこと。
けがなど事故の原因となります。

●磁気カードなどを近づけないこと。
製品に内蔵されている磁石や磁気を帯びた部品でフロッピーディスクやキャッシュカードなどの内容が消去される場合があります。

●ハンドストラップなどを持って振りまわさないこと。
けがなど事故や故障・破損の原因となります。

●ヒモが傷つくなどした、傷んだハンドストラップは使用しないこと。

●湿度やほこりの多いところ、また高温となるところに保管しないこと。

●直射日光の強いところや炎天下の車の中などに長時間放置しないこと。
発熱・発火・故障の原因となります。

●電子機器に影響を与える場合は使用しないこと。
自動車内で使用した場合、車種によりまれに車両電子機器に影響を与えるものがあります。そのような場合は使用しないでください。
チューナー、テレビなど、他の機器に影響を与えるようなときは、距離をはなして設置してください。

●濡らさないこと。
水などの液体が入ると発熱・感電・故障などの原因となります。使用場所、取扱いにご注意ください。

●普通のゴミと一緒に捨てないこと。
発火・環境破壊の原因となります。

目次

安全上のご注意 ····································2
無線機の取扱いについて ····························2
目次 ··6

ご使用の前に必ずお読みください ······················8
ご使用上の注意 ······································8
電波法上の注意 ······································8
外部電源使用時の注意 ································8
お願いとおことわり ··································8

第1章　機能と特長 ··································9
1.1　標準付属品 ······································9

第2章　付属品 ······································9
2.1　付属品の取り付け方 ······························9
■アンテナの取り付け/取り外し方 ······················9
■バッテリーパックの取り付け/取り外し方 ··············10
■バッテリーパックのショート防止のご注意 ············11
■充電兼用ACアダプター(EDC-126) ······················11
■バッテリー充電時期の目安 ··························11

第3章　各部の名称と操作 ····························12
3.1　本体の名称と動作 ································12
■上面部/前面部 ······································12
■側面部 ··13
3.2　キー操作 ··14
3.3　ディスプレイの表示 ······························15

第4章　基本操作 ····································16
4.1　電源を入れる ····································16
4.2　音量を調整する ··································16
4.3　スケルチを調整する ······························17
■モニター機能 ··17
■ミュート機能 ··18

4.4　運用モード ······································18
■運用モードの切り替え ································18
4.5　周波数の設定 ····································19
■VFOモードでの設定 ··································19
■プリセットモードでの設定 ····························20
■メモリーモードでの設定 ······························20
4.6　メモリーモード ··································21
■メモリーの種類と使い方 ······························21
■メモリーチャンネルの登録 ····························21
■メモリーチャンネルの消去 ····························22
■メモリー可能な項目 ··································22

第5章　便利な機能 ··································23
5.1　スキャン機能 ····································23
■VFOスキャン ··23
■プログラムスキャン ··································23
■プリセットスキャン ··································24
■メモリースキャン ····································24
5.2　メモリースキップ機能 ····························25
5.3　キーロック機能 ··································25
5.4　プライオリティ機能 ······························25
5.5　空線信号キャンセラー機能 ························25
5.6　トーンスケルチ/逆トーンスケルチ機能 ··············26
5.7　トーンスキャン機能 ······························26
5.8　シフト機能 ······································27
5.9　盗聴器発見機能 ··································27

第6章　セットモード ································28
6.1　セットモード一覧 ································28
6.2　セットモードの設定方法 ··························28
6.3　セットモードで設定できる機能 ····················28
①ATT(アッテネータ)機能の設定 ························28
②アンテナタイプ切り替え機能 ··························29
③AMバーアンテナ設定 ································29
④短波用バーアンテナ設定 ······························30
⑤LAMP(ランプ)機能の設定 ····························30

8.4　アフターサービスについて

■保証書

保証書は、所定事項(ご購入店名、ご購入日)への記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

■保証期間

お買い上げの日より1年間です。
正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に保証書を添えて、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。保証書の規定にしたがって修理いたします。

■保証期間が経過した場合

お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合には、お客さまのご要望により有料で修理いたします。
アフターサービスについてご不明な点がありましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

■製造中止製品に対する保守年限に関して

製造中止製品に関しては、下記の一定期間保守部品を常備しております。
しかし、不測の事態により在庫が無くなる場合もあり、修理が行えないこともありますのでご了承願います。
※補修用部品の保証期間は、製造中止後5年です。

8.5　CTCSSトーン周波数一覧

トーンスケルチ/逆トーンスケルチ機能をご利用の際に使用するCTCSSトーン周波数一覧です。
トーン周波数表示状態でダイヤルを回し、使用する周波数を次の39個の標準トーンから選択してください。

67.0	131.8
69.3	136.5
71.9	141.3
74.4	146.2
77.0	151.4
79.7	156.7
82.5	162.2
85.4	167.9
88.5	173.8
91.5	179.9
94.8	186.2
97.4	192.8
100.0	203.5
103.5	210.7
107.2	218.1
110.9	225.7
114.8	233.6
118.8	241.8
123.0	250.3
127.3	

8.2 リセット

> ⚠注意 ・本機をリセットする前には、必ずライトプロテクト設定(📖33ページ)を確認してください。ライトプロテクトがOFFの状態でリセットを行うと、工場出荷時に登録されるメモリーデータが全て消去され、元に戻すことはできません。十分にご注意ください。
> ・ライトプロテクト(📖33ページ)がOFFの状態でリセットを行うと、お客さまが登録したメモリーチャンネルデータも全て消去されます。

リセットすると、各種の設定内容が工場出荷時の初期値に戻ります。

1. [F]キーを押しながら(PWR)キーを押して電源を入れます。

2. ディスプレイに全てのセグメントが表示されたら(PWR)キーと[F]キーをはなします。
   初期設定のVFOモードになります。

■工場出荷時の初期値

・VFO周波数	145MHz
・メモリーチャンネル数	1000ch
・音量	30
・スケルチレベル	3
・チャンネルステップ	AUTO

注記 工場出荷時にメモリーチャンネルに書き込まれるデータは弊社で独自に編集しておりますが、周波数の割り当てや使用モードなどは変更になることがあります。弊社でも随時データの見直しは行っておりますが、データの信頼性は保証しておりません。ご購入後のメモリーチャンネルのメンテナンスは、必要に応じて市販の周波数帳などを参考にお客さまにより行ってください。

参考 万一、誤って工場出荷時のメモリーデータを消去された場合は、弊社にて無償で修復いたしますが、その際の送料等はお客さまの負担となりますのでご了承ください。詳細は弊社サービスセンター、または大阪営業所にお問い合わせください。

8.3 オプション一覧

EBP-58N	リチウムイオン充電池(バッテリーパック)
EDC-126	充電兼用ACアダプター
EME-25	カールコード・イヤホン
EDH-32	シガーライターケーブル
EME-18	プチ型イヤホン
ESC-38	ソフトケース
ERW-4C	PC接続ケーブル

⑥スキャンタイプ切り替え機能 ……30
⑦PRI(プライオリティ)機能の設定 ……31
⑧盗聴器発見機能の感度設定 ……31
⑨APO(オートパワーオフ)機能の設定 ……31
⑩バッテリーセーブ機能の設定 ……32
⑪BEEP(ビープ)機能の設定 ……32
⑫BELL(ベル)機能の設定 ……32
⑬MONIキーの動作設定 ……32
⑭モニター/ミュート機能の設定 ……33
⑮ライトプロテクト(メモリー保護)機能の設定 ……33
⑯電波形式の設定 ……34

第7章 クローン機能/PC接続機能 ……35
7.1 接続方法 ……35
7.2 データを受け取る側の操作 ……35
7.3 データを送る側の操作 ……36

第8章 保守・参考 ……37
8.1 故障とお考えになる前に ……37
8.2 リセット ……38
■工場出荷時の初期値 ……38
8.3 オプション一覧 ……38
8.4 アフターサービスについて ……39
■保証書 ……39
■保証期間 ……39
■保証期間が経過した場合 ……39
■製造中止製品に対する保守年限に関して ……39
8.5 CTCSSトーン周波数一覧 ……39

第9章 定格 ……40

この取扱説明書では、次の絵記号を使って説明しています。

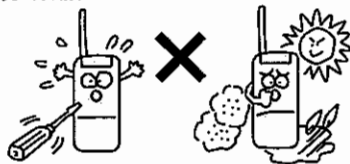
人が損害を負ったり、本機やその他の付属品が故障したり正常に動作しなくなる原因となる事項について記載しています。必ずお読みください。

本機をご使用になる上で、守っていただきたい事項やご注意いただきたい事項について記載しています。

補足的な情報や、参照していただきたい項目を記載しています。

ご使用の前に必ずお読みください

ご使用上の注意

- ケースを外して内部に手を触れないでください。故障の原因になります。
- 直射日光の当たる場所、ほこりの多い所、暖房器具の近くなどでのご使用、および保管はしないでください。
- テレビ、チューナーなど他の機器に影響を与える場合には距離をはなしてご使用ください。
- 付属のホイップ・アンテナは完全に取り付けてお使いください。
- 万一、煙が出たり、異臭がする場合は、電源スイッチをすみやかに切ってください。安全を確かめた上で販売店、または最寄りの弊社サービス窓口へご連絡ください。

電波法上の注意

電波法第59条は「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」とし、第109条で「無線局の取扱い中に係る無線通信の秘密を漏らし、又は窃用した者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と罰則規定を設けています。さらに第109条の2で「暗号（秘話）通信を受信した者が、その暗号通信の秘密を漏らし、又は窃用する目的で、その内容を復元（秘話解除）したときは、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と定めていますので、放送以外の無線通信を傍受される場合は電波法違反とならないよう十分ご注意ください。

外部電源使用時の注意

- 本機に接続する外部電源は、必ず出力電圧が3.7V～6.0Vの範囲内にある直流電源を使用してください。
- 電圧が6.5V以上の外部電源を使用すると、本機の故障の原因となるおそれがありますので、絶対におやめください。
- 本機に外部電源を接続する場合には、付属の充電兼用ACアダプター(EDC-126)を使用し、本体側面にあるDC電源ジャック端子に直接接続してください。
- 車のシガーソケットから電源を取る場合には、充電用シガーライターケーブル(EDH-32)を使用してください。
- 外部電源ケーブルの抜き差しは、必ず本体の電源をOFFにしてから行ってください。

お願いとおことわり

- 本機は厳重な管理の下に生産および出荷されますが、万一ご不審な点やお気付きの点がありましたら、できるだけ早くお買い上げいただいた販売店または弊社営業所へご連絡ください。
- 本機は広帯域受信機のため本体の内部発信(スプリアス)によって、受信できなかったり、雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。
- 付属の周波数データリストに記載された周波数はあくまでも参考のもので、付近の電波状況等の諸条件により受信できない場合があります。
- この取扱説明書は予告なく変更することがあります。

第8章　保守・参考

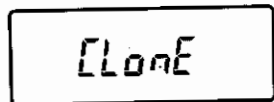
8.1　故障とお考えになる前に

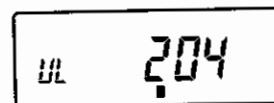
次のような症状は故障ではありませんので、よくお確かめになってください。
処置をしても異常が続くときは、リセットをすることで症状が回復する場合があります。

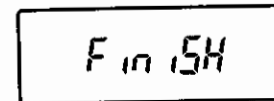
症状	原因	処置
電源を入れても、ディスプレイには何も表示されない。	バッテリーパックが接触不良をおこしている。	バッテリーパック内の電極の汚れなどを取り除く。
	電池が消耗している。	充電を行う。
	電源スイッチをはなすのが早すぎる。	電源スイッチを約1秒間押す。
スピーカーから音が出ない。 受信音がキャッチができない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定する。
	スケルチレベルが高すぎる。	適切なスケルチレベルに設定する。
	トーンスケルチが働いている。	トーンスケルチを解除する。
周波数表示が異常になっている。	CPUが誤作動している。	外部電源およびバッテリーパックを取り外し、10秒以上待ってから取り付ける。それでも解決しないときはリセットする。
スキャンができない。	スケルチが開いている。	スケルチを雑音の消える位置に設定する。
周波数、メモリーチャンネルNo.が切り替わらない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
キーによる操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
受信中に表示が点滅したり消えたりする。	電池が消耗している。	充電を行う。

7.3 データを送る側の操作

1.[MONI(ST/SK)]キーを押しながら(PWR)キーを押して電源を入れます。
ディスプレイに次のように表示され、クローンモードになります。

CLonE

2.その状態でダイヤルを押すとディスプレイに次のように表示され、内部の設定情報を相手のDJ-X7に転送します。

UL 204

3.転送が完了したら次の表示を確認し、転送を完了します。

FinISH

4.一度電源をOFFするとクローンモードは解除されます。
データが正確に転送されなかった場合はディスプレイに「FAIL」が表示されます。
再度、手順1からやり直してください。

第1章 機能と特長

- AMラジオ受信(バーアンテナ内蔵)
- 短波受信(バーアンテナ内蔵)
- FMラジオ受信(イヤホンアンテナ受信)
- エアーバンド、業務通信等の広帯域受信
- 簡易盗聴器発見機能
- シフト機能
- 39種類のCTCSSトーンスケルチ機能
- クローン機能
- リチウムイオン充電池採用
- 空線信号キャンセラー

1.1 標準付属品

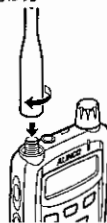
- リチウムイオン充電池(バッテリーパック) EBP-58N (3.7V 600mAh)
- 充電兼用ACアダプター EDC-126(6.0V 0.5A)
- ホイップ・アンテナ(SMAタイプ)
- カールコード・イヤホン
- アンテナキャップ
- 取扱説明書
- 保証書
- 周波数データリスト

第2章 付属品

2.1 付属品の取り付け方

■アンテナの取り付け/取り外し方

●取り付け方

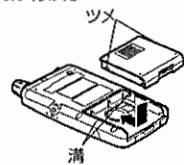
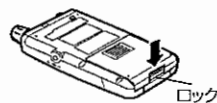
1. アンテナの根元を持ちます。
2. アンテナをアンテナコネクターに差し込みます。
3. アンテナを時計方向(右)にゆっくりと回します。
4. 回転が止まったら、確実に取り付けたことを確認します。

●取り外し方

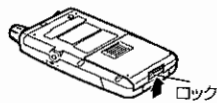
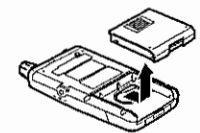
アンテナを反時計方向(左)にゆっくりと回します。

⚠注意 他の形状のコネクターから本機のアンテナコネクターに変換が必要な場合は、変換コネクターやケーブルの荷重が本機のアンテナコネクターにかかり過ぎないようにご注意ください。故障の原因となります。

注記 高性能すぎる外部アンテナを接続すると、逆に受信状態を悪くすることがありますのでご注意ください。

■バッテリーパックの取り付け/取り外し方

●取り付け方

1.バッテリーパックのツメを本体の溝に合わせます。
2.バッテリーパックを矢印の方向に押し込みます。

3.バッテリーパックのロックを矢印の方向にカチッと音がするまで押し下げます。

●取り外し方

1.バッテリーパックのロックを矢印の方向に押し上げます。

2.バッテリーパックを矢印の方向に引き抜きます。

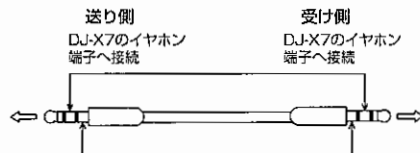
⚠注意
・バッテリーパックの改造、分解、または火中、水中への投入は危険ですからしないでください。
・バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器が損傷したり、バッテリーパックの発熱による火傷のおそれがあります。
・バッテリーパックの保存は、-20℃～+45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーパックの液もれや、金属部分のサビの原因になりますので避けてください。

注記
・本機に付属するバッテリーパックは充電されておりません。
お買い上げ後に充電してからご使用ください。
・バッテリーパックは本体に装着し、DC電源ジャックに付属の充電兼用ACアダプターを接続すると、本体内蔵の充電回路により充電できます。
・付属のバッテリーパックを本体充電回路で充電するときは最大2時間30分が必要です。
・充電は0℃～40℃の温度範囲内で行ってください。温度範囲外ですと正しく充電できません。
・本機を長期間使用されないときは、付属のバッテリーパックを本機から取り外して保存してください。
・通常の使用で約500回の充電が可能ですが、所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつきたものと思われます。新しい物にお取り替えください。
・ご使用済みのバッテリーパックは、環境保護のため燃えないゴミと一緒に捨てないでください。弊社サービスにご相談頂くか、または電池回収協力店へご持参ください。
・充電中は、本機の電源を切る必要はありませんが、受信音にノイズが混入する場合があります。

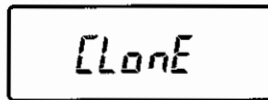
第7章　クローン機能/PC接続機能

クローン機能とは、2台のDJ-X7をケーブルで接続し、1台に設定している情報(メモリーデータを含む)を他(受け側)のDJ-X7に転送してコピーする機能です。
また、PC接続機能によりDJ-X7をパソコンに接続して、ソフトウェアでメモリーチャンネルの編集や機能の設定などを行えます。(詳細は22ページの右側にある「参考」をお読みください。)DJ-X7をパソコンに接続する場合は、後述の「データを受け取る側の操作」を行ってください。

7.1　接続方法

・図のように、送り側および受け側のイヤホン端子どうしを市販の2.5φのステレオミニプラグコードで接続します。パソコンに接続するときは、別売のPC接続ケーブル(ERW-4C)のソケットをパソコンのシリアルポートに、プラグを本体のイヤホン端子に接続します。
・ケーブルの接続は必ず本体の電源をOFFにした状態で行ってください。

7.2　データを受け取る側の操作

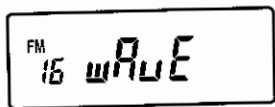
1.[MONI(ST/SK)]キーを押しながら(PWR)キーを押して電源を入れます。
ディスプレイに次のように表示され、クローンモードになります。

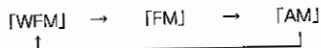
CLonE

2.クローン機能によりデータを受け取る場合は、このタイミングで送信側の操作(「データを送る側の操作」□36ページ)を行います。パソコンに接続する場合は、ソフトウェアを起動します。
パソコンに接続した場合の以降の操作は、画面に従ってください。

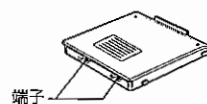
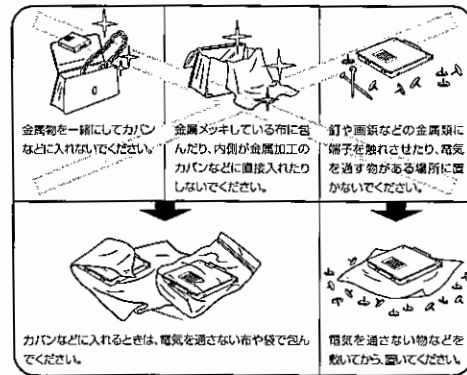
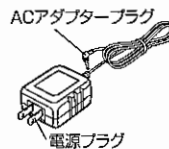
3.送信側でデータの転送が完了するか、ソフトウェアでの操作が終了したら、本体の電源を切ります。

注記
・ステレオミニプラグコードは、内部抵抗のない直結タイプを使用してください。
・クローン機能でデータ転送中に何かキーを押すと、データ転送が中断されます。転送を再開するときはダイヤルを押してください。
・データ転送中はケーブルを抜かないでください。ケーブルが抜けると、送信側のディスプレイに「FAiL」と表示され、データ転送が中断されます。
・クローン機能を使用してデータを転送すると、受け側のデータ内容は全て送り側のデータ内容に置き換わってしまいます。受け側にデータがある場合は注意してください。

⑯電波形式の設定
電波形式を変更する機能です。あらかじめ、VFOモードのチャンネルステップの設定(📖19ページ)を参考に、目的の周波数帯で使われているステップに切り替えてください。

1.セットメニューの16を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

2.ダイヤルを回すと、電波形式が切り替わります。

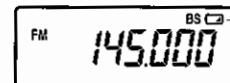
「WFM」 → 「FM」 → 「AM」

参考 チャンネルステップが"Auto"の場合、この項目は表示されません。

■バッテリーパックのショート防止のご注意

バッテリーパックを持ち運ぶときには、端子をショートさせないように注意してください。
大電流が流れて火傷や火事を起こす危険があります。

■充電兼用ACアダプター(EDC-126)
●充電方法

1.本体にバッテリーパックを装着します。
2.本体のDC電源ジャックに充電兼用ACアダプターのACアダプタープラグを接続します。
3.電源プラグを家庭用電源のAC100Vのコンセントへ接続します。

本体の電源のON/OFFに関係なく充電が開始されます。
本体の電源がOFFのとき電池マークが点滅、RXランプが点灯し、充電が完了すると消灯します。

⚠注意 ・充電兼用ACアダプターは、他社製品の充電等には絶対に使用しないでください。
・本体の充電端子を金属片等で短絡させたりすると、本体にダメージを与える場合があります。

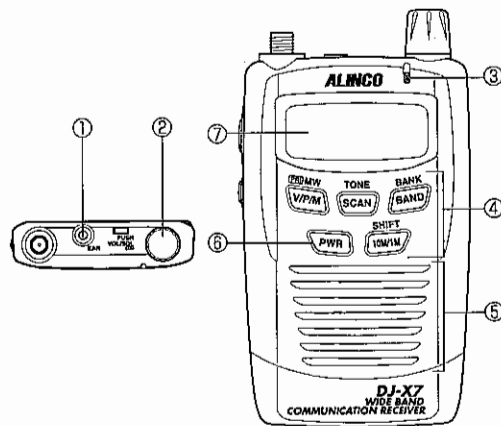
注記 ・必ず、バッテリーパックを本機に装着してから、ACアダプタープラグを接続してください。先にACアダプタープラグを接続すると、充電が開始されません。
・充電兼用ACアダプターを使用しないときは、電源コンセントから外しておいてください。
・充電時間は、バッテリーパックの使用状態により異なります。
・AC100Vが著しく低下すると、充電できないことがあります。

■バッテリー充電時期の目安

減電池表示
電池が少なくなったときに表示します。

・電池の減電池表示は、周囲温度や電池の使用頻度により多少異なることがあります。
・この表示が出たときは、すぐに充電してください。
・本機には、電池の残り容量をあらわす表示はありません。

第3章　各部の名称と操作

3.1　本体の名称と動作

■上面部/前面部

	名称	機能
①	イヤホン端子	2.5φプラグを使用して、イヤホンや外部スピーカー(8Ω)を接続します。
②	ダイヤル	ダイヤルを回して周波数の変更など各種設定を行います。 ダイヤルを押すと音量調整、スケルチ調整ができます。 F点灯中にダイヤルを押すとセットモードに入ります。(📖28ページ)
③	RXランプ	スケルチが開くと緑色に点灯します。
④	キーパッド	この取扱説明書の「キー操作」を参照してください。(📖14ページ)
⑤	スピーカー	薄型スピーカーが内蔵されています。
⑥	PWRキー	このキーを約1秒間押すと電源のON/OFFができます。
⑦	ディスプレイ	この取扱説明書の「ディスプレイの表示」を参照してください。(📖15ページ)

2.ダイヤルを回すと表示が変わり、MONIキーの動作設定を切り替えることができます。

「moni」　→　「mUtE」

⑭モニター/ミュート機能の設定

モニター機能、ミュート機能使用時の[MONI(ST/SK)]キーの動作方法を設定します。

PUSH・・・・・[MONI(ST/SK)]キーを押している間だけモニター機能、またはミュート機能が有効になります。

HoLd・・・・・・[MONI(ST/SK)]キーを押す度にモニター機能、またはミュート機能が動作/解除と切り替わります。

1.セットメニューの14を選択します。

ディスプレイに次のように表示されます。

2.ダイヤルを回すと表示が変わり、モニター/ミュート機能の設定を切り替えることができます。

⑮ライトプロテクト(メモリー保護)機能の設定

登録されているメモリーチャンネルを別の内容に上書きしたり、消去したりすることを禁止し、メモリー内容を保護する機能です。空きチャンネルの書き込みはこの設定にかかわらず常に行えます。

1.セットメニューの15を選択します。

ディスプレイに次のように表示されます。

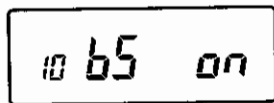
2.ダイヤルを回すと、ライトプロテクト機能のON/OFFが切り替わります。

⚠注意　・本機をリセット(📖38ページ)する前には、必ずこのライトプロテクト設定を確認してください。ライトプロテクトがOFFの状態でリセットを行うと、工場出荷時に登録されるメモリーデータが全て消去され、元に戻すことはできません。十分にご注意ください。

・ライトプロテクトがOFFの状態でリセットを行うと、お客さまが登録したメモリーチャンネルデータも全て消去されます。

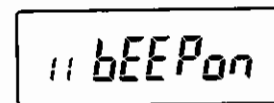
⑩バッテリーセーブ機能の設定
電池の無駄な消耗を防ぐため、キー操作をしない状態や信号を受信しない状態が5秒間以上続くと、一定の比率で内部回路を休止状態にし、電池の消耗を防ぐ機能です。
通常はONに設定しておくことをお勧めします。

1.セットメニューの10を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

10 bS on

2.ダイヤルを回すと、バッテリーセーブ機能のON/OFFが切り替わります。
ONに設定するとディスプレイに「**BS**」が点灯します。
- 工場出荷時はONに設定されています。
- 信号を受信したり、スキャンを行っている間は、バッテリーセーブ機能は解除されます。
- 休止状態のときも、ディスプレイの表示は点灯しています。

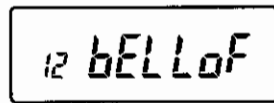
⑪BEEP(ビープ)機能の設定
操作時にビープ音を鳴らす機能です。キー操作や設定動作を知らせる音がうるさいときは、OFFにしてください。

1.セットメニューの11を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

11 bEEPon

2.ダイヤルを回すと、BEEP機能のON/OFFが切り替わります。

⑫BELL(ベル)機能の設定
信号を受信したことをベル音で知らせる、ポケットベルのような機能です。

1.セットメニューの12を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

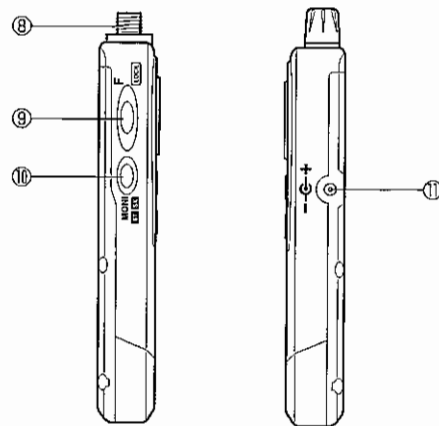
12 bELLoF

2.ダイヤルを回すと、BELL機能のON/OFFが切り替わります。
ONに設定するとディスプレイに「🔔」が点灯します。
信号を受信すると「🔔」が点滅し、ベル音も鳴ります。

⑬MONIキーの動作設定
[MONI(ST/SK)]キーを、モニター機能、ミュート機能のどちらに使うかを選択します。

moni ……[MONI(ST/SK)]キーはモニター機能に設定されます。
mUtE ……[MONI(ST/SK)]キーはミュート機能に設定されます。

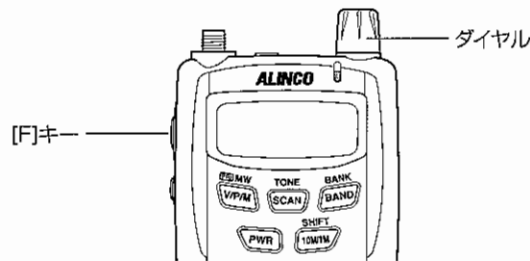
1.セットメニューの13を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

13 moni

■側面部

	名称	機能
⑧	アンテナコネクター	付属のホイップ・アンテナをしっかりと装着します。
⑨	F(LOCK)キー	このキーと他のキーを組み合わせることで様々な機能を使用できます。 このキーを約1秒間押すとキーロックの設定ができます。
⑩	MONI(ST/SK)キー	このキーを押すとスケルチが開き受信音が聞こえます。TSQが設定されていてもスケルチは開きます。 F 点灯中に押すと、ステップ周波数の切り替えができます。
⑪	DC電源ジャック	外部電源接続端子です。 付属の充電兼用ACアダプターを接続してバッテリーパックを充電します。 オプションのシガーライターケーブルを接続して運用*や充電ができます。 *受信周波数により、ノイズが混入する場合があります。

3.2 キー操作

ダイヤル

[F]キー

キー	機能	[F]キーを押した後	キーの長押し(約1秒)	キーを押しながらダイヤル操作
V/P/M	VFO/プリセット/メモリーモードの切り替え (□18ページ)	メモリーチャンネルの登録 (□21ページ)	プライオリティの開始 (□25ページ)	
SCAN	スキャンの開始と停止 (□23～24ページ)	トーンスケルチ設定 (□26ページ)		スキャンモードの変更 (□23ページ)
BAND	バンドの切り替え (□19ページ)	バンクの切り替え	バンクリンクのON/OFF	
PWR	電源のON/OFF (□16ページ)		電源のON/OFF (□16ページ)	
10M/1M	シフト機能 (□27ページ) 10MHz1MHz UP/DOWNの切り替え (□19ページ)	シフトの設定 (□27ページ)		
F	各種設定の切り替え		キーロックのON/OFF (□25ページ)	
ダイヤル	周波数、ボリューム、スケルチ、その他の設定 (□16～17、28ページ)	セットモード (□28ページ)	盗聴器発見機能のON/OFF (□27ページ)	

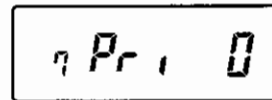
2. ダイヤルを回すと表示が変わり、スキャンタイプの設定を切り替えることができます。

「bUSY」 → 「timEr」

⑦PRI(プライオリティ)機能の設定

2つの周波数を交互に受信し、待ち受けを効率よくする機能です。VFOモードを5秒受信するごとに、プライオリティチャンネルを0.5秒受信し、受信状態をチェックできます。

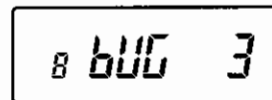
1. セットメニューの7を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

7 Pr i 0

2. ダイヤルを回すと、受信状態をチェックするプライオリティチャンネルを変更できます。
プライオリティチャンネルは、あらかじめ登録した0ch～9chから選択してください。(□21ページ)

⑧盗聴器発見機能の感度設定

盗聴器発見機能動作時の探知感度を、1(高)～5(低)から選択できます。

1. セットメニューの8を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

8 bUG 3

2. ダイヤルを回すと、探知感度を変更できます。
初期値は3です。

注記 ・感度を高くし過ぎると、誤動作を起こしやすくなります。
・この機能は簡易的なもので、セキュリティの安全を保障するものではありません。

⑨APO(オートパワーオフ)機能の設定

電源スイッチの切り忘れによる電池の消耗を防ぐ機能です。

1. セットメニューの9を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

9 APO oF

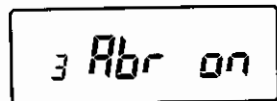
2. ダイヤルを回すと表示が変わり、APO機能のON/OFFと、時間設定ができます。

「oF」 → 「30」 → 「60」 → 「90」

APO機能がONの状態のときは、ディスプレイに「**APO**」が点灯します。
APOが点灯しているとき、設定した時間無操作状態が続くと、ビープ音が鳴り自動的に無線機の電源が切れます。再び電源を入れるには、もう一度電源スイッチをONにしてください。

参考 信号を受信しているだけではAPO時間は延長されませんが、キー操作を行うとカウントダウンがリセットされて、APO時間が延長されます。

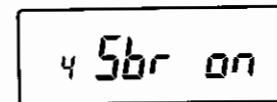
1.セットメニューの3を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

3 Abr on

2.ダイヤルを回すと、AMバーアンテナのON/OFFが切り替わります。

④短波用バーアンテナ設定

本体内蔵の短波用アンテナを使用するかどうかを設定します。ONに設定すると、短波帯を含む3MHz～30MHzを受信します。OFFに設定すると、外部アンテナを利用することができるようになります。

1.セットメニューの4を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

4 Sbr on

2.ダイヤルを回すと、短波用バーアンテナのON/OFFが切り替わります。

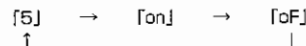
⑤LAMP(ランプ)機能の設定

本機の初期設定では、キー操作を行うとディスプレイの照明が自動的に点灯し、無操作状態が5秒間続くと自動的に消灯するように設定されていますが、変更することもできます。ONに設定するとディスプレイの照明は常灯となり、OFFに設定すると照明は使えなくなります。

1.セットメニューの5を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

5 LmP 5

2.ダイヤルを回すと表示が変わり、LAMP機能のON/OFFと、時間設定ができます。

「5」 → 「on」 → 「oF」

初期値は5(秒)の自動モードです。

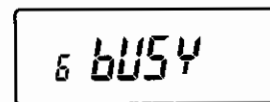
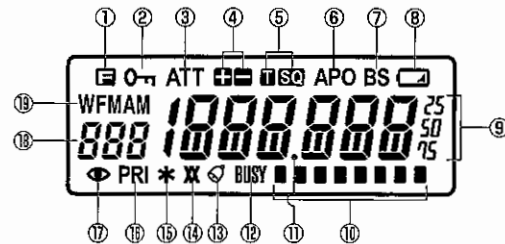
⑥スキャンタイプ切り替え機能

スキャンの再開条件を設定します。スキャン中に信号を受信するとスキャンが一時停止しますが、この設定によりどのようなときにスキャンを再開するかを設定できます。

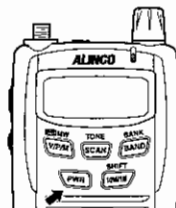
bUSY ……信号を受信しなくなるとスキャンを再開します。
timEr ……信号を受信中でも5秒経過するとスキャンを再開します。

1.セットメニューの6を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

6 bUSY

3.3 ディスプレイの表示

No.	表示	内容
①	F	[F]キーを押すと点灯します。
②	O-π (鍵)	キーロック設定時に点灯します。
③	ATT	アッテネータ機能がONのときに点灯します。
④	+−	シフト方向を表示します。
⑤	T SQ	「T」はトーンスケルチ/逆トーンスケルチ機能の動作時、「SQ」はトーンや空線信号の検出時に点灯します。
⑥	APO	オートパワーオフ機能がONのときに点灯します。
⑦	BS	バッテリーセーブ機能がONのときに点灯します。
⑧	(電池)	電池残量が少なくなると点灯します。
⑨	1888.888	受信周波数や各設定内容等を表示します。
⑩	■■■■■■■■	受信レベルを表示します。
⑪	●	各種スキャン機能の動作時に点滅します。また、メモリースキップ機能の動作時は表示されません。
⑫	BUSY	スケルチが開くと点灯します。
⑬	(ベル)	BELL機能設定時に点灯します。
⑭	XX	空線信号キャンセラー機能の動作時に点灯します。
⑮	*	メモリースキャンのバンクリンクスキャンでリンク設定時に点灯します。
⑯	PRI	プライオリティ機能がONのときに点灯します。
⑰	(目)	盗聴器発見機能がONのときに点灯します。
⑱	888	メモリーチャンネルNo.や各設定状態を表示します。
⑲	WFMAM	電波形式(AM、FM、WFM)を表示します。

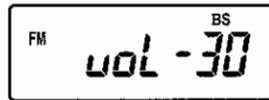
第４章　基本操作

4.1　電源を入れる

PWRキーを約１秒間押すと電源が入ります。

電源を切るときも同じ操作をします。

4.2　音量を調整する

・音量調節は０～50までの51段階です。
・初期値は30です。

1.ダイヤルを１回押します。
音量レベルが表示されます。

2.ダイヤルを回して、音量レベルを増加または減少させます。
設定値を大きくすると音量も大きくなります。

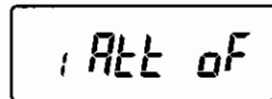
3.ダイヤルか[F]キーを押し、設定を完了します。
ダイヤルの無操作状態が約５秒続いても、自動的に設定を完了し通常表示に戻ります。

⚠注意 イヤホンを使用する際は音量にご注意ください。

音が出ないときは？
スケルチが閉じている場合、またはミュート機能が動作している場合は音量の数字を大きくしても受信音は聴こえません。
詳細は、次の「スケルチを調整する」（📖17ページ)と「ミュート機能」（📖18ページ)をお読みください。

受信信号レベルで約20dB減衰します。目的の信号の強さは弱くなりますが、不要な電波も聞こえにくくするため、結果として目的の信号をクリアに聞くことができる場合があります。

1.セットメニューの１を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

1 Att oF

2.ダイヤルを回すと、ATT機能のON/OFFが切り替わります。
ONに設定するとディスプレイに「**ATT**」が点灯します。

参考 この機能は付属のホイップ・アンテナを利用しているときのみ有効になります。通常はOFFでお使いください。

②アンテナタイプ切り替え機能

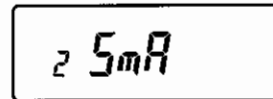
DJ-X7は受信する周波数帯に応じてアンテナの種類の切り替えができます。DJ-X7のアンテナには次の４種類があります。セットメニューの②から④でこれらの設定を行います。

外部アンテナ・・・・・・・・付属のホイップ・アンテナです。全周波数範囲で利用できます。
イヤホンアンテナ・・・・イヤホンのコードがアンテナになります。30MHzより上の周波数帯を受信します。
AMバーアンテナ・・・・本体内蔵のAMアンテナです。AMラジオ帯を含む100kHz～3MHzを受信します。セットメニューの③で設定を行います。
短波用バーアンテナ・・本体内蔵の短波用アンテナです。短波帯を含む3MHz～30MHzを受信します。セットメニューの④で設定を行います。

各アンテナは本機のディスプレイに次のように表示されます。
外部アンテナ・・・・・・・・SmA
イヤホンアンテナ・・・・EAr
AMバーアンテナ・・・・Abr
短波用バーアンテナ・・Sbr

セットメニューの②では、外部アンテナとイヤホンアンテナを切り替えます。

1.セットメニューの２を選択します。
ディスプレイに次のように表示されます。

2 SmA

2.ダイヤルを回すと表示が変わり、アンテナタイプの設定を切り替えることができます。

「SmA」　→　「EAr」

参考 ・イヤホンアンテナは、コードの状態によって受信される信号が不安定になることがあります。
・バーアンテナによる受信は、電波状況により信号が不安定になることがあります。

③AMバーアンテナ設定

本体内蔵のAMアンテナを使用するかどうかを設定します。
ONに設定すると、AMラジオ帯を含む100kHz～3MHzを受信します。
OFFに設定すると、外部アンテナを利用することができるようになります。

第6章　セットモード

本機ではセットモードを使用して色々な機能を用途に応じて設定することができます。

6.1 セットモード一覧

①ATT(アッテネータ)機能の設定

②アンテナタイプ切り替え機能

③AMバーアンテナ設定

④短波用バーアンテナ設定

⑤LAMP(ランプ)機能の設定

⑥スキャンタイプ切り替え機能

⑦PRI(プライオリティ)機能の設定

⑧盗聴器発見機能の感度設定

⑨APO(オートパワーオフ)機能の設定

⑩バッテリーセーブ機能の設定

⑪BEEP(ビープ)機能の設定

⑫BELL(ベル)機能の設定

⑬MONIキーの動作設定

⑭モニター/ミュート機能の設定

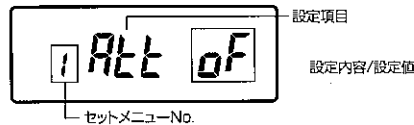
⑮ライトプロテクト(メモリー保護)機能の設定

⑯電波型式の設定

6.2 セットモードの設定方法

1.[F]キーを押し、F点灯中にダイヤルを押します。
セットモードに切り替わります。

2.ダイヤルを押すごとに項目が順次変わります。
[MONI(ST/SK)]キーを押すと逆の順に変わります。

3.設定したい項目で、ダイヤルを回して設定内容を変更します。
詳細は「6.3　セットモードで設定できる機能」で説明します。(セットモードのセットメニューNo.は、次の「6.3　セットモードで設定できる機能」の項目番号に対応しています。)
以降のそれぞれの機能の設定では、ダイヤルを時計方向(右)に回したときの操作方法を記載しています。

4.[F]キーを押して、設定を終了します。

6.3 セットモードで設定できる機能

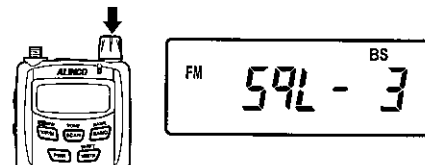
本機のセットモードで設定することができる機能は次のとおりです。

①ATT(アッテネータ)機能の設定
受信している信号が他のチャンネルの強力な信号の影響を受けているような場合に使用します。ATT機能をONに設定すると、

4.3 スケルチを調整する

スケルチとは、AMやFMの受信をする際、信号のないときに出る「ザー」というノイズ音をカットする機能です。
「スケルチが開く」とは、信号を受信して受信音を出すことができる状態を示します。

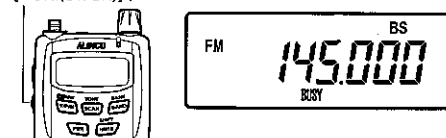
・スケルチレベルは0～9までの10段階です。
・初期値は3です。

1.ダイヤルを2回押します。
スケルチレベルが表示されます。

2.ダイヤルを回して、スケルチレベルを増加または減少させます。
設定値を大きくすると弱い信号は音が途切れたり、全く受信できないことがあります。通常はノイズが消える最小のレベルに設定します。周波数や電波環境により調整が必要になります。

3.ダイヤルか[F]キーを押し、設定を完了します。
ダイヤルの無操作状態が約5秒続いても、自動的に設定を完了し通常表示に戻ります。

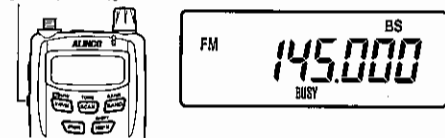
■モニター機能
スケルチを強制的に開く機能です。受信信号が弱かったり音が途切れるときに、設定されているスケルチレベルに関わらず一時的にスケルチを開きます。この機能は、セットモード内で[MONI(ST/SK)]キーの動作をモニター機能として設定した場合に有効になります。設定方法の詳細については、「MONIキーの動作設定」(📖32ページ)をお読みください。

モニター機能にはHOLDとPUSHの2種類があります。2種類とも[MONI(ST/SK)]キーを押すことでディスプレイに「BUSY」が点灯し、スケルチが開きます。

[MONI(ST/SK)]キー

・PUSHの設定では[MONI(ST/SK)]キーを押している間だけスケルチが開きます。[MONI(ST/SK)]キーをはなすと再び設定されたスケルチレベルに戻ります。
・HOLDの設定では一度[MONI(ST/SK)]キーを押すとスケルチが開いたままの状態を保ちます。再度[MONI(ST/SK)]キーを押すとモニター機能は解除され、設定されたスケルチレベルに戻ります。
・PUSHとHOLDの切り替えはセットモード内で設定します。設定方法の詳細については、「MONIキーの動作設定」(📖32ページ)をお読みください。

■ミュート機能
消音機能です。スケルチが開いて信号が入ってきても音を出さなくする機能です。この機能は、セットモード内で[MONI(ST/SK)]キーの動作をミュート機能として設定した場合に有効になります。
設定方法の詳細については、「MONIキーの動作設定」(📖32ページ)をお読みください。

ミュート機能にもHOLDとPUSHの2種類があります。2種類とも[MONI(ST/SK)]キーを押すことでディスプレイに「BUSY」が点滅し、ミュート機能が動作します。

[MONI(ST/SK)]キー

・PUSHの設定では[MONI(ST/SK)]キーを押している間だけミュート機能が動作します。[MONI(ST/SK)]キーをはなすとミュート機能は解除され、受信音が聴こえるようになります。
・HOLDの設定では一度[MONI(ST/SK)]キーを押すとミュートの状態を保ちます。再度[MONI(ST/SK)]キーを押すとミュート機能は解除され、受信音が聴こえるようになります。

参考 モニター機能とミュート機能はいずれか一方しか選択できません。

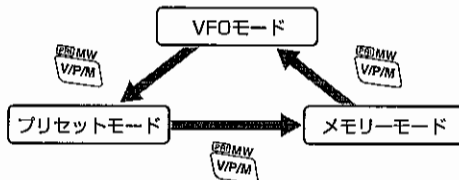
これで信号を受信するための準備ができました。次は、実際に周波数を合わせて信号を受信してみましょう。
次のセクションでは、DJ-X7がもつ3つの運用モードについて説明します。

4.4 運用モード

DJ-X7には、VFOモード、プリセットモード、メモリーモードの3つの運用モードがあります。

VFOモード ………ダイヤルで周波数を連続的に可変するモードです。
プリセットモード‥‥AMラジオ、FMラジオ、TV1～62チャンネルの音声周波数があらかじめセットされています。
メモリーモード……あらかじめ登録しておいた周波数を呼び出して運用するモードです。

参考 メモリー登録をするには、「メモリーモード」(📖21ページ)をお読みください。

■運用モードの切り替え
(MW V/P/M)キーを押すごとに、図のように順にモードが切り替わります。

トーンが発見されると、ディスプレイに「SQ」が点灯し、トーンスキャンが停止します。

5.[F]キーを押します。
VFOモードに戻ります。

トーンスキャン機能を解除するには？
トーンが見つからない場合は、いつまででもスキャンし続けます。中断したい場合、あるいは停止したい場合は、(PWR)キー、[MONI(ST/SK)]キー以外のキーを押してください。

5.8 シフト機能

現在受信している周波数に対して、ワンタッチで受信周波数をずらす機能です。例えば、レピーターのアップリンクとダウンリンク周波数をワンタッチで切り替えて受信できます。

1.[F]キーを押し、F点灯中に(SHIFT 10M/1M)キーを押します。
ディスプレイの表示が次のように変わります。

「oFF」 → −シフト周波数 → +シフト周波数

2.ダイヤルを回して、ずらしたい周波数を選択します。
(SHIFT 10M/1M)キーを押しながらダイヤルを回すと、1MHz単位で周波数を変更できます。(ただし、.100と.531のバンドは不可)

3.[F]キーを押して設定を終了します。

4.(SHIFT 10M/1M)キーを押している間、設定したシフト周波数分だけずれた周波数を受信します。
(SHIFT 10M/1M)キーをはなすと元の周波数に戻ります。

注記 ・日本の430MHz帯で標準的なレピーターは、シフト方向「-」(マイナス)、シフト周波数5.00(5MHz)です。
・タクシー無線や業務無線などにも応用できますが、アップリンク周波数側はすぐ近くの局でないと受信できません。

5.9 盗聴器発見機能

盗聴器で使われそうな周波数を自動的にスキャンして、盗聴電波を探知する機能です。
盗聴器があると判断すると、ディスプレイと警告音で知らせます。

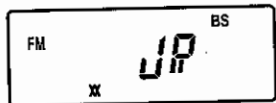
注記 ・この機能を動作させるときは、イヤホンは使用しないでください。
・この機能は簡易的なもので、セキュリティの安全を保障するものではありません。
・ノイズ等の影響で誤動作し、スキャンが止まることがあります。盗聴器などがあれば、ハウリング音に混じって周囲の音が必ず聞こえます。
・弊社では、盗聴器発見サービス等は行っておりません。

1.ダイヤルを約1秒間押します。
ディスプレイに「👁」が点灯し、自動的にスキャンを開始します。盗聴電波があると判断すると、ディスプレイの「👁」が点滅し、スキャンが停止します。周囲の音が本機のスピーカから聞こえてくれば、盗聴器が仕掛けられている可能性があります。

2.ダイヤルを押して、音量を調整できるようにします。
ハウリングの音(キーン音)が本体の向きで発生するように音量を調整し、盗聴器を探し出します。
このときスピーカーの開口部をふさがないでください。

3.再度、ダイヤルを約1秒間押します。
この機能が解除されます。

参考 ・盗聴器発見の探知感度を設定できます。詳細はセットモードの「盗聴器発見機能の感度設定」(📖31ページ)をお読みください。
・盗聴器発見機能チャンネル用バンク内とリンク設定されたバンク内を探索します。

3. TONE SCAN キーを何度か押し、ディスプレイに「X」と300～3000の範囲の数字、または次のように表示される画面(「JR」)を選びます。
空線信号キャンセラー機能が動作します。

4. 周波数が表示されたら、ダイヤルを回して周波数を変更し、耳障りな音が消えるように調節します。

5. [F]キーを押して設定を終了します。

空線信号キャンセラー機能を解除するには？

[F]キーを押してから TONE SCAN キーを何度か押し、ディスプレイに「oFF」の表示が出た状態で、再度[F]キーを押します。

5.6 トーンスケルチ/逆トーンスケルチ機能

選択したCTCSSトーンを検出した場合にのみ音を出したり、出さなかったりする機能です。

1. トーン、または逆トーンを使って通信している周波数に合わせます。

2. [F]キーを押します。
ディスプレイに「F」が点灯します。

3. TONE SCAN キーを何度か押し、ディスプレイにトーン周波数が表示され「T」が点灯(正トーン)、あるいは点滅(逆トーン)する画面を選びます。

4. ダイヤルを回してCTCSSトーン周波数を選択します。
39ページの「CTCSSトーン周波数一覧」を参照してください。
正トーンの場合はトーンが合致する信号を受信するとスケルチが開き、逆トーンの場合はスケルチが閉じます。

5. いずれの場合も、[F]キーを押して設定を終了します。

トーンスケルチ機能を解除するには？

いずれの場合も、[F]キーを押してから TONE SCAN キーを何度か押し、ディスプレイに「oFF」の表示が出た状態で、再度[F]キーを押します。

注記 トーンスケルチを使うときも、通常のスケルチレベル(📖17ページ)は適正に調節しておいてください。

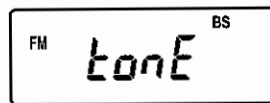
5.7 トーンスキャン機能

受信電波に含まれるCTCSSトーン周波数を自動的に探し出す機能です。

1. VFOモードで、トーンを使って通信している周波数に合わせます。

2. TONE SCAN キーを押します。

3. TONE SCAN キーを押したままダイヤルを回して、ディスプレイの表示を「tonE」に合わせます。

FM tonE BS

4. TONE SCAN キーをはなします。
トーンスキャン機能が動作し、ディスプレイにトーン周波数が表示されます。

4.5 周波数の設定

■VFOモードでの設定

工場出荷時から最初に電源を入れたときに表示されるモードです。ダイヤルを回して周波数や各種機能の設定を変更することができます。

●バンドの切り替え

BANK BAND キーを押すと、次の14のバンドから順に選択できます。

	.100	(100~530kHz)*1	AM
	.531	(531~1620kHz)*2	AM
	1.625	(1.625~49.995MHz)	AM
	51.000	(50.000~75.995MHz)	FM
	76.100	(76.000~107.995MHz)	WFM
	118.000	(108.000~141.995MHz)	AM
初期値	145.000	(142.000~169.995MHz)	FM
	175.750	(170.000~221.995MHz)	WFM
	270.000	(222.000~335.995MHz)	AM
	380.000	(336.000~429.995MHz)	FM
	433.000	(430.000~469.995MHz)	FM
	475.750	(470.000~769.995MHz)	WFM
	806.000	(770.000~959.995MHz)	WFM
	1295.000	(960.000~1299.995MHz)	FM

●チャンネルステップ周波数の設定方法

チャンネルステップ周波数の初期設定単位は変更できます。
設定できるチャンネルステップ周波数の単位は次のとおりです。
初期設定は "Auto" です。通常はAuto設定を変更する必要はありませんが、自動で合わない周波数を聞く際に設定してください。

Auto、5、6.25、8.33、10、12.5、15、20、25、30、50、100、125、200 kHz
*1：ステップ周波数1kHzのみ
*2：ステップ周波数9kHzのみ

1. BANK BAND キーを押してチャンネルステップを変更したいバンドを選択します。

2. [F]キーを押して、F点灯状態で[MONI(ST/SK)]キーを押します。

3. ダイヤルを回して、チャンネルステップ周波数を選択します。

4. [F]キーを押すと設定が完了し、周波数表示に戻ります。
いずれかのバンドで "Auto" 以外のステップを選択すると、全てのバンドで "Auto" は解除されます。また最後に選択したバンドごとのステップが記憶されます。
いずれかのバンドで "Auto" に戻すと、全てのバンドとも "Auto" になります。"Auto" の場合、本機にあらかじめプログラムされたステップとモードが自動的に使われます。

●10MHz1MHz UP/DOWN

SHIFT 10M/1M キーを1回押すと10MHzモードになり、ダイヤルを1クリック回すと10MHz単位で周波数が増減します。

再度 SHIFT 10M/1M キーを押すと1MHzモードになり、ダイヤルを1クリック回すと1MHz単位で周波数が増減します。
10MHzモード、1MHzモードのときは、それぞれ10MHz桁、1MHz桁の数字が点滅します。

注記 シフト機能(📖27ページ)が設定されているときは、このキーはシフトキーとして動作します。そのため10MHz1MHz単位のUP/DOWNはできません。

■プリセットモードでの設定

1. V/P/M キーを押してプリセットモードにします。

2. BAND キーで聴きたいバンドを選択します。

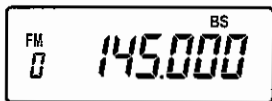
BAND キーを押すごとに、バンドがAMラジオ→FMラジオ→TV→AMラジオ…の順に切り替わります。

3. ダイヤルで周波数(TVの場合はチャンネル)を増減します。

参考 AMラジオの場合はディスプレイ部に「AM」と表示され、FMラジオ、TVの場合はディスプレイ部に「WFM」と表示されます。また、AM/FMラジオの場合は周波数が、TVの場合はチャンネルが表示されます。

■メモリーモードでの設定

1. V/P/M キーを押してメモリーモードにします。

2. BAND キーでバンクを選択します。

3. ダイヤルでチャンネルを選択します。
登録されていないバンク、チャンネルは選択できません。

参考 メモリーモードに全くデータが書き込まれていないときは、この操作をしてもメモリーモードにはなりません。

・スキャンを再開する条件を設定することもできます。詳細は、「スキャンタイプ切り替え機能」(📖30ページ)をお読みください。

5.2 メモリースキップ機能

メモリースキップ機能とは、メモリースキャン時に、設定したメモリーチャンネルをスキップさせる機能です。
スキップさせたいメモリーチャンネルを設定する手順は次のとおりです。

1. V/P/M キーを押してメモリーモードにします。

2. スキップさせたいメモリーチャンネルを呼び出します。

3. [F]キーを押します。
ディスプレイに「F」が点灯します。

4. [MONI(ST/SK)]キーを押します。
メモリースキップが設定され、ディスプレイのドットが消灯します。

メモリースキップを解除するには?
メモリースキップを解除したいメモリーチャンネルを呼び出して、手順3、4の操作をします。(ドットが点灯します。)

5.3 キーロック機能

使用時や携帯時に誤って操作されることを防ぐ機能です。

[F]キーを約1秒間押して、キーロック機能のON/OFFを切り替えます。
・キーロック時は、ディスプレイに O┳┳ マークが点灯します。
・キーロック時でも、[MONI(ST/SK)]キー操作、ボリュームとスケルチレベルの設定、電源のON/OFF、キーロックの解除の各操作が可能です。

5.4 プライオリティ機能

2つの周波数を交互に受信し、待ち受け効率をよくする機能です。設定周波数を5秒受信するごとに、プライオリティチャンネルを0.5秒受信し、信号の有無をチェックします。

1. V/P/M キーを約1秒間押して、プライオリティを開始します。
プライオリティ動作時は、ディスプレイに「PRI」が点灯します。

2. V/P/M キーを押すと解除されます。
ディスプレイの「PRI」が消灯します。

参考 ・選択されているプライオリティチャンネルにデータが書き込まれていない場合は無効音が鳴って、プライオリティ動作にはなりません。(📖21ページ)
・プライオリティ動作中は、スキャンはできません。
・プライオリティチャンネル側で受信した場合でも最大5秒後に設定周波数側に戻ります。
・プライオリティに設定したメモリーのどのチャンネルを使うかは、セットモードで設定します。設定方法の詳細については、「PRI(プライオリティ)機能の設定」(📖31ページ)をお読みください。

5.5 空線信号キャンセラー機能

通話が行われていないときに聞こえる「ピー」という、通常鉄道無線等で使用されている空線信号音を消す機能です。

1. 空線信号の出ている周波数に合わせます。

2. [F]キーを押します。
ディスプレイに「F」が点灯します。

■プリセットスキャン

1. [V/P/M]キーを押してプリセットモードにします。

2. [BAND]キーで、AMラジオ、FMラジオ、またはTVを選択します。

3. [SCAN]キーを押します。
プリセットスキャンを開始します。スキャン中はディスプレイのドットが点滅します。
信号をキャッチするとスキャンを一時停止します。

■メモリースキャン
メモリーモード時に、特定のバンク内または全てのバンク内をスキャンします。メモリースキャンには次の3種類があります。

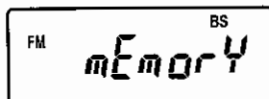
単バンクスキャン‥‥選択した1つのバンク内のみをスキャンします。
バンクリンクスキャン
‥‥‥‥‥‥‥‥‥リンク設定されたバンク内をスキャンします。リンク設定したいバンクを指定して、[BAND]キーを約1秒間押すと、ディスプレイに「✱」が点灯し、リンクが設定されます。再度同じ操作を行うと、「✱」が消灯しリンクが解除されます。
全バンクスキャン‥‥バンク0～バンク9の全バンクがスキャンの対象となります。

参考
・バンク0～バンク9以外のバンクはスキャンできません。
・オプションのソフトウェアの操作でバンクの拡張を行うと、バンク0～バンク49までの間でバンクリンクや全バンクスキャンが可能になります。

メモリースキャンの操作手順は次のとおりです。

1. [V/P/M]キーを押してメモリーモードにします。

2. [SCAN]キーを押します。
メモリースキャンの種類が表示されます。

3. [SCAN]キーを押したままダイヤルを回して、メモリースキャンの種類を選択します。
メモリースキャンの種類は次のとおりです。
mEmorY‥‥単バンクスキャン
Linq‥‥‥‥バンクリンクスキャン
ALL‥‥‥‥全バンクスキャン
単バンクスキャンを選択したときは、メモリーモードで表示されている現在のバンクがスキャンの対象となります。

4. [SCAN]キーをはなします。
メモリースキャンを開始します。スキャン中はディスプレイのドットが点滅します。
信号をキャッチするとスキャンを一時停止します。

参考 次の項目は各スキャンに共通の仕様です。
・スキャンの開始方向は、最後に操作した方向によって決まります。(ただし、プログラムスキャンの場合は、対になる周波数の方向に向かってスキャンを開始します。)
・スキャン中にダイヤルを回すとスキャン方向を変更できます。
・スキャンを停止するには、ダイヤル、[MONI(ST/SK)]キー以外の操作をしてください。
・スキャン中にモニター機能を動作させると、その間はスキャンが一時停止します。モニター機能を解除するとスキャンを再開します。

4.6 メモリーモード

あらかじめ登録しておいた周波数を呼び出して運用するモードです。登録された周波数をチャンネルと呼びます。

■メモリーの種類と使い方
DJ-X7には通常メモリーチャンネル用、プログラムスキャンチャンネル用、プライオリティチャンネル用、サーチパスメモリーチャンネル用、盗聴器発見機能チャンネル用の5種類のメモリーバンク(それぞれのチャンネルをまとめておく仕切り)があります。ここでは、それぞれの種類のバンクについて説明します。

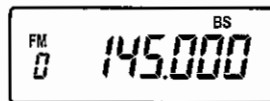
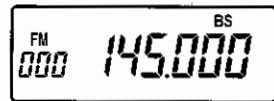
通常メモリーチャンネル
‥‥‥‥‥‥‥‥‥メモリーモードで呼び出す通常のチャンネルです。合計1000chの周波数を登録できます。よく使う周波数を登録しておくと、簡単に呼び出すことができます。
プログラムスキャンチャンネル
‥‥‥‥‥‥‥‥‥プログラムスキャン機能に使用します。50組の周波数範囲(上限と下限)を登録できます。
サーチパスメモリーチャンネル
‥‥‥‥‥‥‥‥‥スキャン時に停止してほしくない周波数を登録しておくと、VFOスキャン時とプログラムスキャン時にその周波数をパスします。100chの周波数を登録できます。
プライオリティチャンネル
‥‥‥‥‥‥‥‥‥プライオリティ機能に使用します。10chの周波数を登録できます。
盗聴器発見機能チャンネル
‥‥‥‥‥‥‥‥‥メモリー登録や消去は行えません。メモリースキップのみ変更できます。

注記
・サーチパスメモリーチャンネル内に、同じ周波数を重複して登録することはできません。
登録しようとするとエラー音が鳴ります。
・工場出荷時にメモリーチャンネルに書き込まれるデータは弊社で独自に編集しておりますが、周波数の割り当てや使用モードなどは変更になることがあります。弊社でも随時データの見直しは行っておりますが、データの信頼性は保証しておりません。ご購入後のメモリーチャンネルのメンテナンスは、必要に応じて市販の周波数帳などを参考にお客さまにより行ってください。

■メモリーチャンネルの登録
メモリーチャンネルの登録方法は次のとおりです。

1. VFOモードで登録したい周波数を設定します。

2. [F]キーを押します。
ディスプレイに「Ⓕ」、バンクの種類が表示されます。

3. [BAND]キーでバンクを選択します。
バンクとメモリーの関係は次のとおりです。
0～9‥‥‥通常メモリーチャンネル用バンク
(工場出荷時の設定によっては9から変更になる場合があります)
PS‥‥‥‥プログラムスキャンチャンネル用バンク
PAS‥‥‥サーチパスメモリーチャンネル用バンク
Pri‥‥‥‥プライオリティチャンネル用バンク
bUG‥‥‥盗聴器発見機能チャンネル用バンク(登録不可)
用途に応じて登録するバンクを選択します。

4.ダイヤルを回してチャンネルを選択します。
バンクの種類によって登録できるチャンネル番号は次のとおりです。
0～9……バンクの仕切り方によって登録できるチャンネル番号は異なります。
工場出荷時の設定につきましては、付属の周波数データリストをご覧ください。
PS ……… 0A～49b
PAS……… 000～099
Pri ……… 000～009
チャンネル番号が点滅しているチャンネルは空で、点灯しているチャンネルには既にデータが書き込まれています。

5. V/P/M キーを押します。
チャンネルに周波数が登録されます。

参考 ・メモリーの追加増設はできません。
・初期設定では、データが書き込まれたチャンネルへの上書きはできません。詳細は「ライトプロテクト(メモリー保護)機能の設定」(□33ページ)をお読みください。

■メモリーチャンネルの消去

1.ライトプロテクト設定をOFFにします。
セットモードの「ライトプロテクト(メモリー保護)機能の設定」(□33ページ)をお読みください。

2. V/P/M キーを押してメモリーモードにします。

3.消去したいメモリーチャンネルを選択します。

4.[F]キーを押し、F点灯中に V/P/M キーを押すとビープ音が鳴り、メモリーされた周波数が消去されます。
このとき、周波数表示は「------」表示になります。

5.この状態でダイヤルを回すとメモリーモードに、V/P/M キーを押すとVFOモードに戻ります。メモリーチャンネルに何も書き込まれていないときは、V/P/M キーを押してVFOモードに戻ります。

参考 メモリーを消去して、「------」表示の状態で、[F]キーを押し、F点灯中に V/P/M キーを押すと、消去したメモリー内容を復帰させることができます。ただし運用モードを変更すると復帰は不可能となります。

■メモリー可能な項目
メモリーチャンネルには、下記の内容を記憶することができます。

・周波数
・シフト周波数
・シフト方向
・トーン周波数
・電波型式
・空線信号キャンセラー/トーンスケルチ/逆トーンスケルチ設定
・空線信号キャンセラー用周波数

参考 弊社ウェブサイト(http://www.alinco.co.jp/)より無償でダウンロードできるソフトウェアと、別売のPC接続ケーブル(ERW-4C 定価¥3,150)を使用すると、これらメモリーチャンネルの編集や機能の設定のほか、メモリーバンクを初期設定から変更して、1000ch以内の任意のch数×最高50バンクまで、バンクを自由に区切ることができるようになります。
この操作は本機単体のボタン操作だけでは行うことはできません。

第5章　便利な機能

5.1　スキャン機能

自動的に受信周波数を切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。
スキャンの種類はビジースキャンとタイマースキャンがあります。
初期設定はビジースキャンです。
ビジースキャンとタイマースキャンの切り替えはセットモードで行います。(□30ページ)

ビジースキャン
スキャン停止後、受信信号が無くなれば次のチャンネルに移ります。
タイマースキャン
スキャン停止後、受信信号があっても5秒経過すると次のチャンネルに移ります。

・スキャン中はディスプレイのドットが点滅します。
・スキャン中、[MONI(ST/SK)]キーを押すと、スキャンが一時停止し、スケルチが開きます。はなすとスキャンが再開されます。
・スキャン中にダイヤルでスキャン方向を変更できます。
再度スキャンするときのスキャン方向は、最後に操作した方向になります。
・スキャンは[MONI(ST/SK)]キー以外のキーで解除できます。

■VFOスキャン
VFOモードで、バンド内の全周波数をあらかじめ設定したステップ周波数でスキャンします。

1. V/P/M キーを押してVFOモードにします。

2. SCAN キーを押しながら、ダイヤルを回して表示を"vFo"に合わせます。

3. SCAN キーをはなします。
スキャンが開始され、最後に操作した方向へチャンネルステップ単位でスキャンします。

4.ダイヤルを時計方向に回すとアップ方向にスキャンし、反時計方向に回すとダウン方向にスキャンします。

5.[MONI(ST/SK)]キー以外のキーを押すと、スキャンは止まります。

■プログラムスキャン
スキャンする範囲の上限と下限を設定して、その範囲内をスキャンします。設定した上限、下限の周波数をプログラムチャンネルと呼びます。本機は50組のプログラムチャンネルを登録できます。設定方法の詳細については「メモリーチャンネルの登録」(□21ページ)をお読みください。あらかじめ登録しておかないと、以下の操作はできません。

1. V/P/M キーを押してVFOモードにします。

2. SCAN キーを押しながら、ダイヤルを回してスキャンを開始したいプログラムチャンネルを選択します。

3. SCAN キーをはなします。
「A」側を選ぶと「A」側から「b」側へ、「b」側を選ぶと「b」側から「A」側に向けてスキャンを開始します。

4.ダイヤルを時計方向に回すとアップ方向にスキャンし、反時計方向に回すとダウン方向にスキャンします。

5.[MONI(ST/SK)]キー以外のキーを押すと、スキャンは止まります。